

東日本大震災から考える 防災と社会課題

木村紀夫



木村 紀夫 (きむら のりお)



team 汐笑(ゆうしょう)プロジェクト代表・大熊未来塾塾長

1965 年福島県大熊町の海沿いの熊川部落に生まれる。自転車で放浪生活をしつつ自給自足的な生活に憧れた 20 代を経て、帰郷し結婚、娘 2 人を授かる。

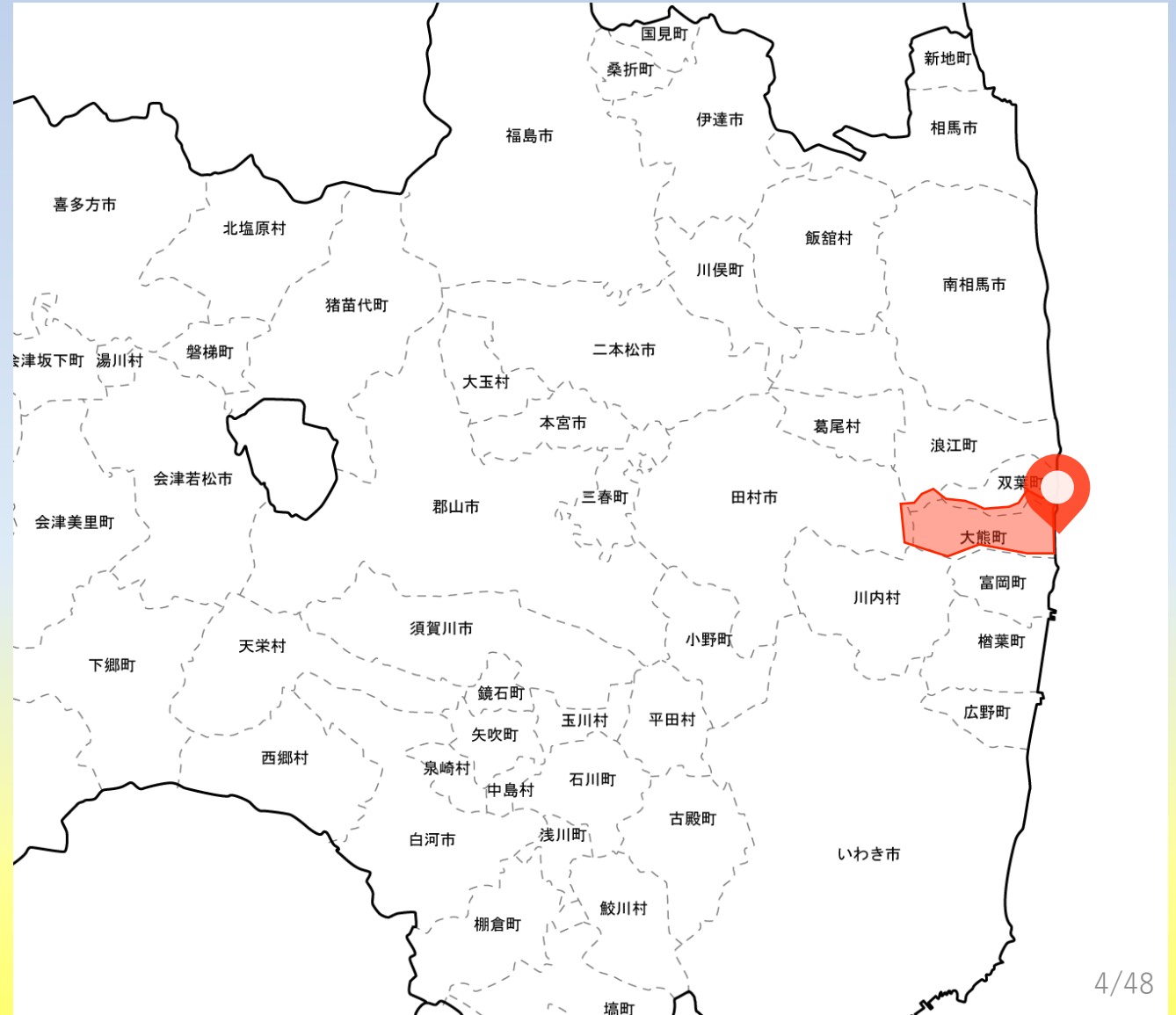
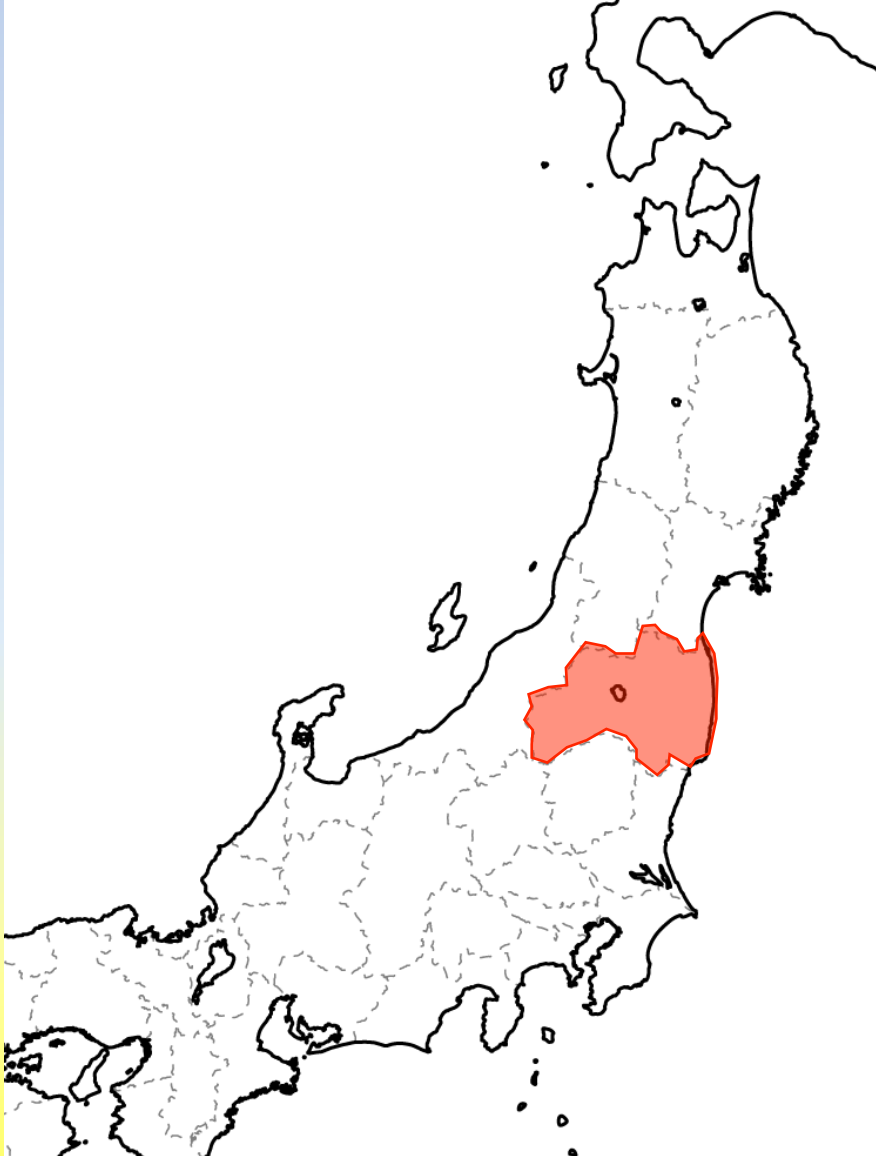
45 歳で東日本大震災により被災。津波で父と妻、次女を失い、原発事故で故郷を追われる。父と妻の遺体は見つかるが次女：汐凧(ゆうな)の遺骨の一部発見までに 5 年 9 か月を要する。搜索の傍ら、避難先の長野県白馬にて便利な物に頼らない生き方を追求し、震災の伝承だけでなくこれからの生き方に疑問を投げかけるようなイベントを開催。

現在は福島県いわき市に拠点を移し、中間貯蔵施設内の大熊の自宅跡に通い発信をつづけ、自身の得た教訓を次世代に絶やさない未来を町で実現するために日々奔走している。

= 本日のお話 =

1. 大熊町の現況と復興を考える
2. 震災体験から防災を考える
3. 答えのない社会課題を考える
4. 大熊未来塾の伝承

大熊町の位置



【震災体験から考える防災】



津波に襲われた故郷、熊川

写真提供：読売新聞

帰宅すると自宅は跡形もなく流されていた



家族3人がいない！

王太朗(わたろう)77歳



深雪(みゆき)37歳



次女、汐風(ゆうな)7歳



裏山からベルが・・・



ベル(震災当時8か月)と汐風(震災当時7歳)

その時、3人は・・・

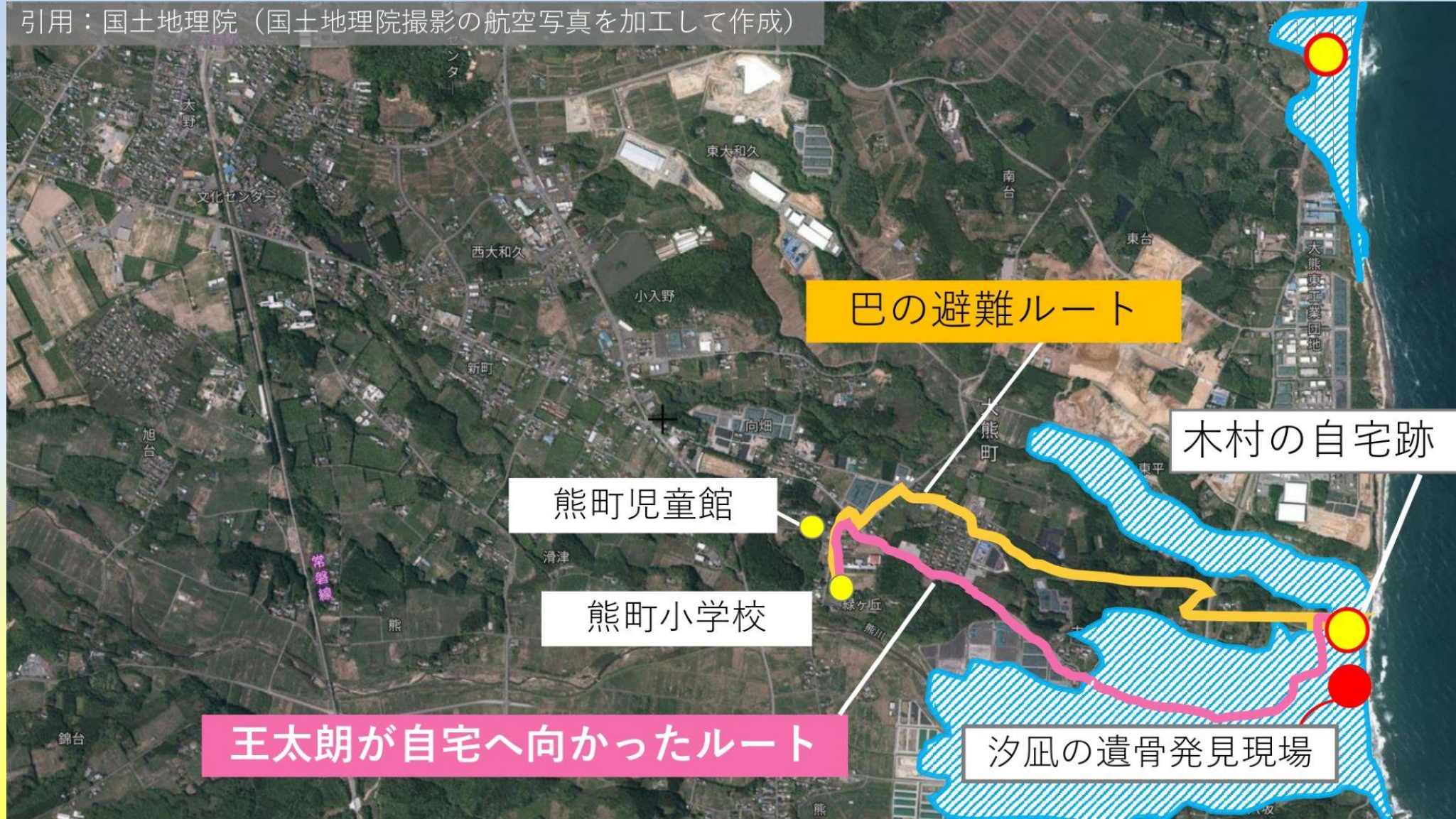


熊町小学校



あなたが王太朗(わたろう)だったら？

引用：国土地理院（国土地理院撮影の航空写真を加工して作成）



= 教訓1 =

平和な時こそ大事

「つなみてんでんこ」
という言葉がありますが・・・

でも、助けに
行っちゃうのが人間

じゃあどうする？

災害前に家族と共有

出来れば、地域コミュニティ内でも・・・

= 教訓2 =

経験者の後悔を聞く

一声かける

引き渡さない！
という選択肢も

東日本大震災被災地では
当たり前になっている



熊町児童館にて、2010年夏
右端が汐風(ゆうな)

= 教訓3 =

歴史から学ぶ

東北沖で起きた主な巨大地震

- 869年 ▶ 貞観地震 (M8.3以上) **最大級**
- 1611年 ▶ **慶長三陸地震** (M8.1、M9.0との新説)
- 1677年 ▶ 延宝房総沖地震 (M8.0)
- 1896年 ▶ 明治三陸地震 (M8.2)
- 1933年 ▶ 昭和三陸地震 (M8.1)
- 1968年 ▶ 十勝沖地震 (M7.9)
- 2011年 ▶ 東日本大震災 (M9.0) **最大級**

※地震調査委員会の長期評価などに基づく。Mはマグニチュード

福島には津波が来ないと思いついていた

貞観地震を知らなかった

東日本大震災を1000年後まで伝える

お諏訪様に救われた住民の命
まさに鎮守の森

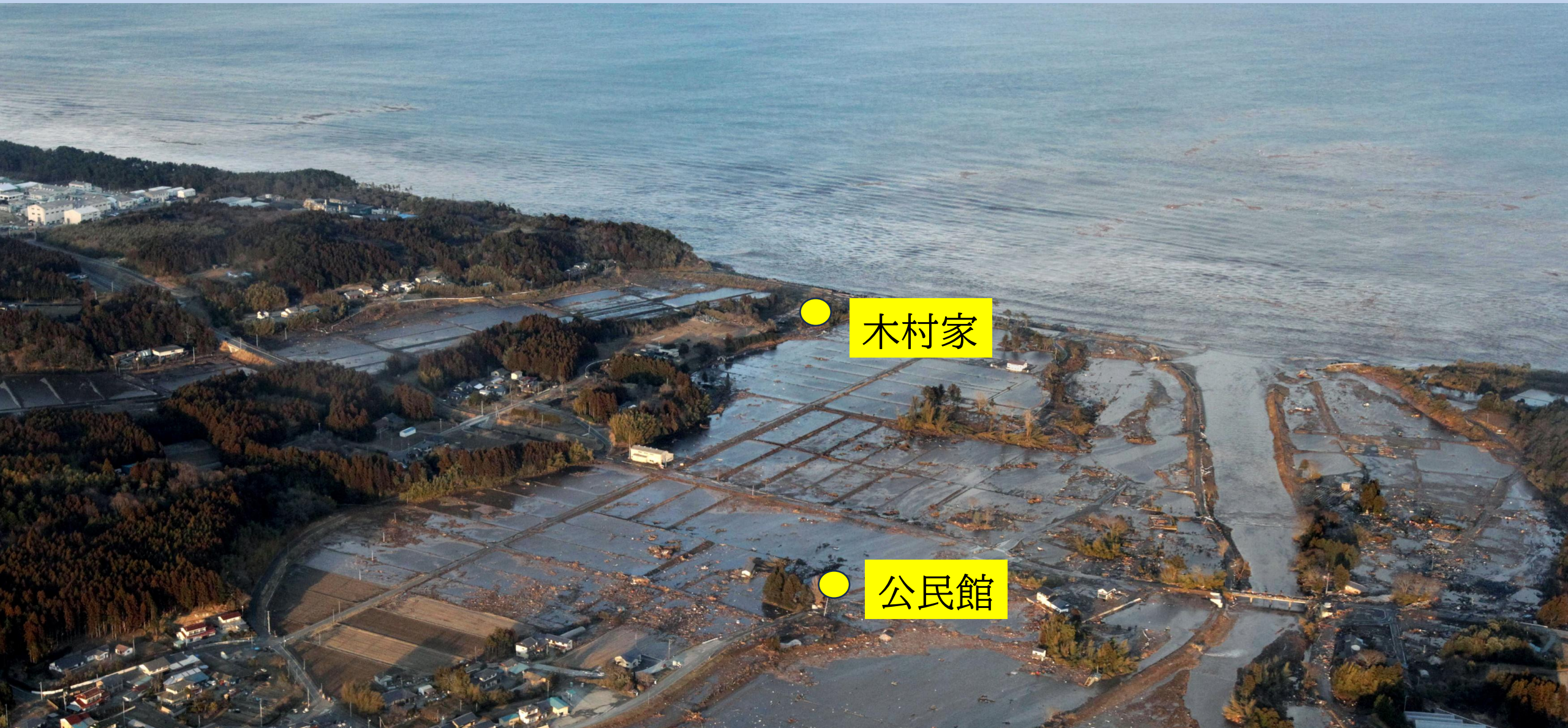


熊川区公民館と諏訪神社

五穀豊穡を願って200年以上続いてきた熊川稚児鹿舞

= 教訓4 =

「違う！」と言える勇気



木村家



公民館

= 教訓5 =

意識を高めることこそ重要

考えない社会

防潮堤は命を救えるのか？

建設中の熊川海岸の新しい防潮堤

【能登地震から感じたこと】
津波から逃げ切れるのか？
原発に頼ってていいのか？
福島復興も大事だけど
今は能登の方が
大事じゃないですか？

【震災から社会課題を考える】

捜しています!!

大熊町で災害津波後
家族 3人が行方不明
です

木村 ユウナ 7才

ミユキ
深雪 37才

ワタロウ
王太郎 77才

少しの情報でもいいので、
見かけた方は 教えてください!!

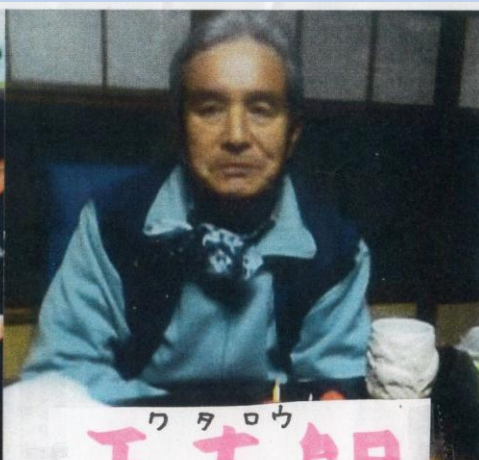
連絡先

・木村 紀夫(父) 090-

・小中 真生(おは) 090-



ユウナ
汐風



ワタロウ
王太郎



ミユキ
深雪

捜索が出来ない!
(2011年3月)

原発事故による
放射能汚染で
捜索が出来なくなる

ひとりで捜す日々(2011年～2013年)

写真提供:尾崎孝史



写真提供:岩波友紀



搜索にボランティアが参加！ (2013年9月～)



中間貯蔵施設の話(2014年)

写真:読売新聞提供

ここに行方不明者がいることを
初めて知りました



中間貯蔵施設造成にあたって
国から汐風の搜索の打診



無視



遺品の発見



環境省による搜索 (2016年11月～2017年)



発見！（2016年12月9日）



遺骨の発見で気が付いたこと

汐風は
津波で亡くなったのか？

置き去りにされたことで
亡くなったのか？

「原発事故で亡くなった人はいない」
東京電力職員
「電気を作ることは、命を守ること」
東京電力社長



熊町幼稚園入園時の汐風
津波浸水域から自衛隊が回収した写真

5年ぶりの遺骨発見で気が付いたこと



国は何してんの？

©Natsuki Yasuda/Dialogue forPeople

防潮堤の下には
まだ遺骨が...

復興の下で捜したい
と言えない遺族が
いるのではないかと...

それが復興？

2022年1月2日

見えてくる社会課題



汚染された場所でミサゴの営みは続く



人はそれでいいの？

A photograph of a wild boar standing on a paved road. The boar is dark brown and hairy, facing the camera. It is surrounded by yellow wildflowers and green foliage. In the background, there is a dense forest of green trees under a blue sky.

生きるためだけでなく
贅沢に生きるその裏で
苦しんでいる生き物や人

未来の人間にも
負の遺産を残し続ける

後ろめたくはないですか？

じゃあ、
どうしたらいいの？

みんなで
考えてみませんか？



大熊未来塾の伝承と その目的



誰も犠牲にしない防災

誰も犠牲にしない社会

目標：1000年後の先まで伝えるために



次世代による語り継ぎ

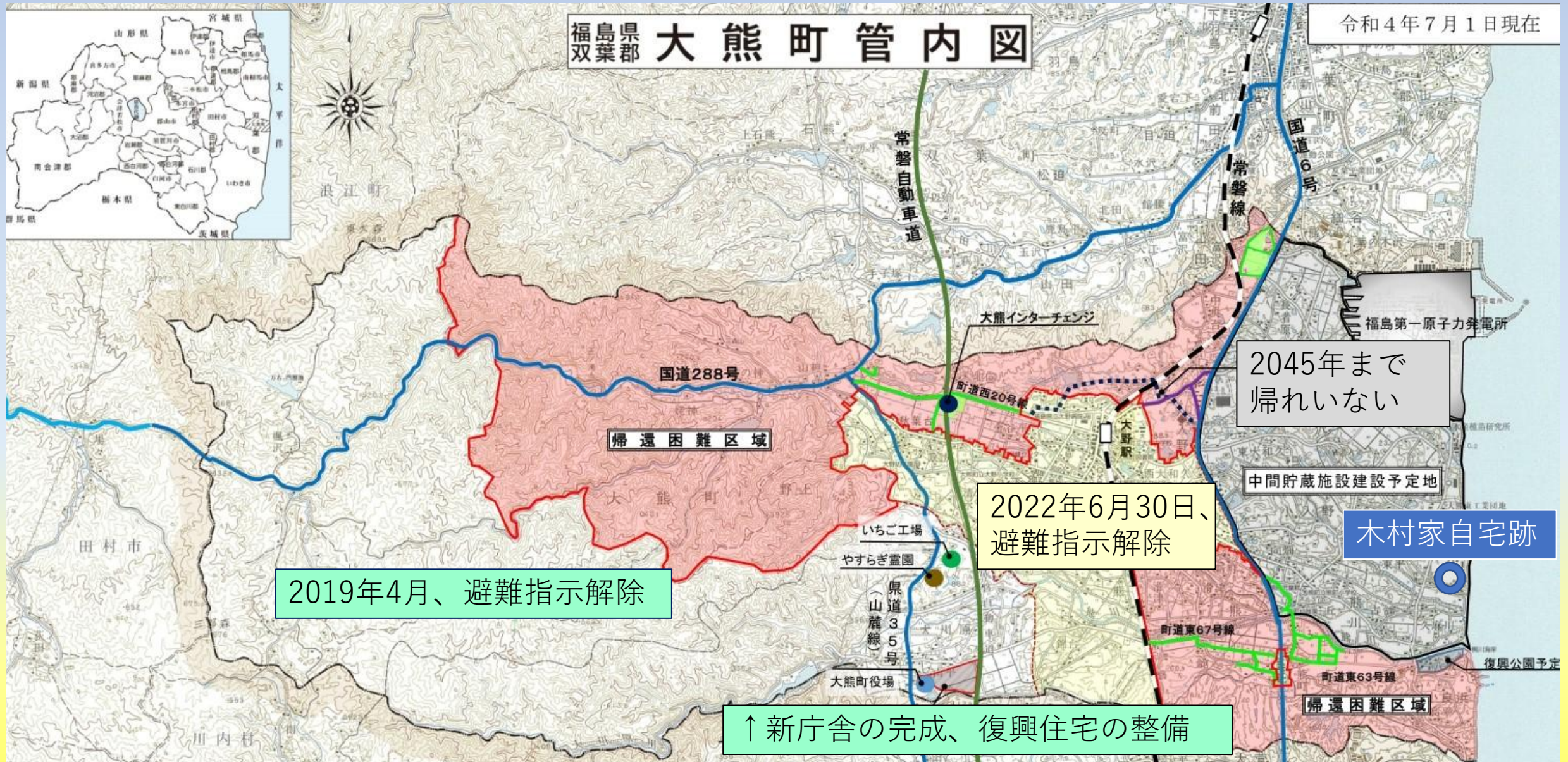
大熊町の大切な震災の
教訓を無駄にしない社会

沖縄・伊江島視察

次世代による視察事業



【震災後の大熊町と復興を考える】





大熊町の新庁舎



クマSUNテラスと
産業交流センター「CREVAおおくま」



復興住宅



学び舎 ゆめの森





震災前の営みが消え、新しい街へ

壊す必要のないものまで？

2023年夏、大熊町図書館解体



壊す必要のないものまで？

2024年秋、大熊町文化センター解体



復興って？

物語の残る花木も・・・



2020年3月、JR常磐線大野駅再開を祝って咲いていた河津桜

震災前の大野小学校

・今はインキュベーションセンターとして利用

贅沢な大熊町、福島県の復興

- ・立派な施設
- ・原発の誘致と重なる

もっと人と支援を必要としている地域があるんじゃない？

大義のために慰 霊の気持ちも示 せない大熊町



希望の灯り

2011 大熊
3.11 大熊
1995 神戸
1.17 神戸

二〇一一年三月
東日本大震災
福島第一原子力発電所の事故による原子力災害
震災によりお亡くなりになられた方
ふるさとに帰ることなくお亡くなりになられた方
皆さまに心より哀悼の意を表します
この灯りは 奪われた すべてのいのちと
生きているわたしたちの思いをさすびつなく



岩手県大槌町の希望の灯り

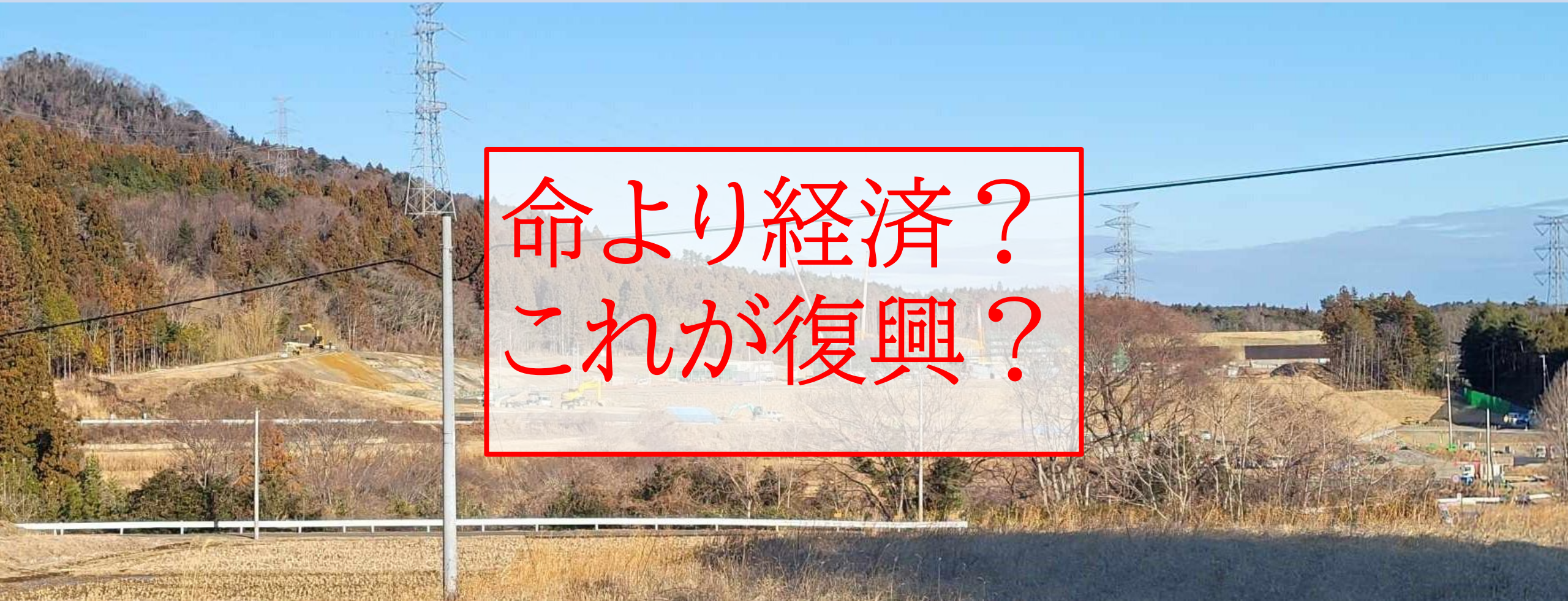
希望の灯り

2011 大熊
3.11 大熊
1995 神戸
1.17 神戸

二〇一一年三月
東日本大震災
福島第一原子力発電所の事故による原子力災害
震災によりお亡くなりになられた方
ふるさとに帰ることなくお亡くなりになられた方
皆さまに心より哀悼の意を表します
この灯りは 奪われた すべてのいのちと
生きているわたしたちの思いをさすびつなく



森を削って工業団地が造成されていく・・・



命より経済？
これが復興？

木村家は、福島第一原子力発電所の南、約3キロにありました。



2045年、この汚染土壌はどうする？

あなたの町で
受け入れてもらえませんか？





津波の被害や命の尊さを学ぶ 遺構の数々

なん松とミサゴ
津波から生き残った一本松の上で
2020年からミサゴが繁殖



キウイフルーツ
手入れができない状況でも旺盛な生命力



熊川区公民館と諏訪神社
津波に襲われたが奇跡的に犠牲者が出なかった
避難所。まさに鎮守の森。



東京電力福島第一原子力発電所

福島県ヒラメ栽培漁業センター



写真：海老沼明

福島県ヒラメ栽培漁業センター
命と防災を学ぶ慰霊の場



小入野橋
津波で倒壊するも小入野側北岸で保存



溺死精霊の墓碑
江戸時代末期の名もなき5人の船乗り



馬の背岬と旧防潮堤
熊川海水浴場の象徴である馬の背岬と
地震で倒壊した旧防潮堤



津波の痕跡と原発事故の影響を
感じさせる場で、
防災と答えのない社会課題を知る

熊町小学校と、町の文化と歴史をたどる さまざまな遺構



海渡神社

お彼岸には日隠山に陽が沈む



山神神社

地震で倒壊するも住民の想いで再建



稲荷神社と燃えた御神木

震災前、毎年恒例の冬の野焼きで燃えた御神木



遍照寺

ご住職の意向で存知保存



熊町幼稚園

樹齢132年におよぶ「おじさんもみじ」



熊町小学校 校庭
震災前からの名物
はしご(運てい)を
飲み込んだ
プラタナス



熊町小学校 1階教室

教室には震災当時の面影が残る



営みが奪われたからこそ
守りたい、守るべきことがある
それを価値として継承したい



大熊未来塾の活動フィールドは
中間貯蔵施設エリア
自分ごとにしてもらえる場所



遺された多様な遺構にいろいろな立場の視察者

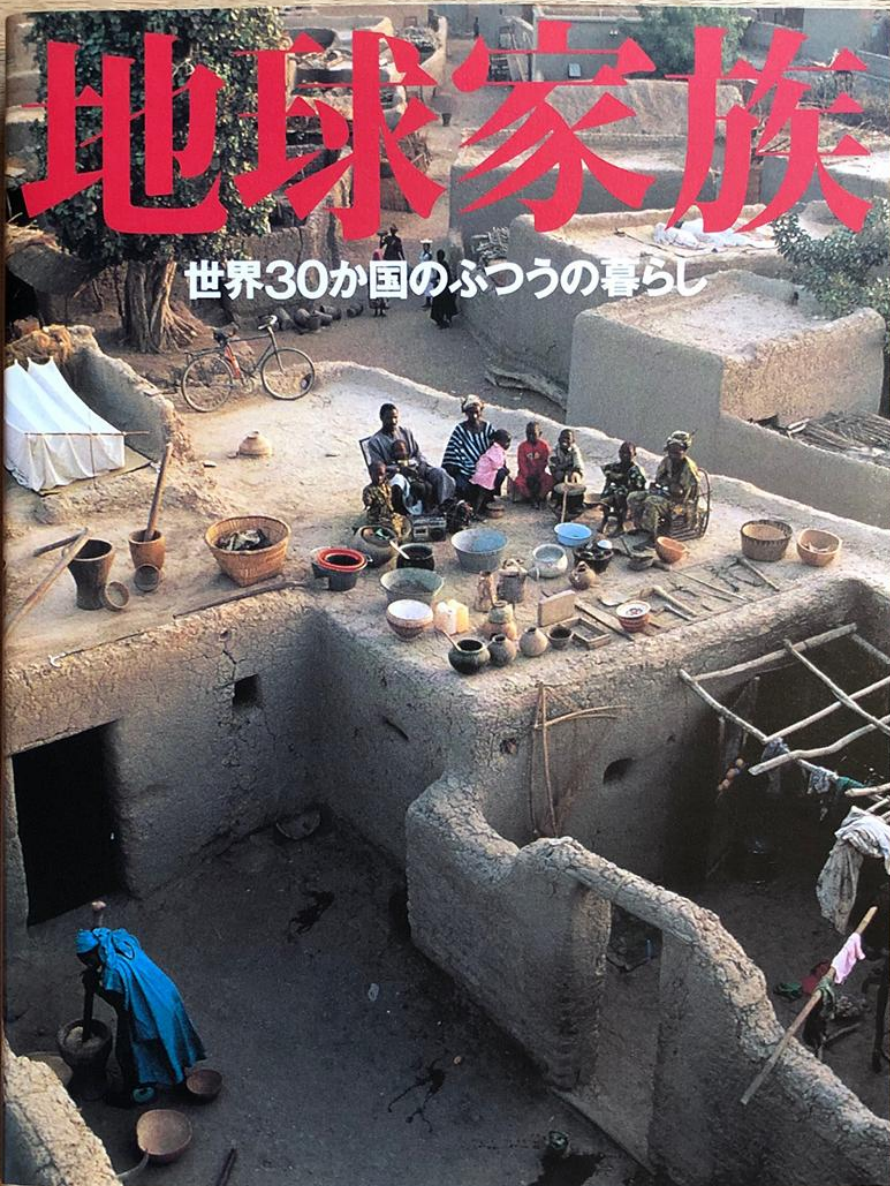


高校生や大学生



企業研修や
海外からも





家財の多さが地球の負担になる
同時に災害時の凶器にもなる





Okuma Future

大熊未来塾



ご清聴、ありがとうございました！